

Rock The Life! ezorock

2011.10
vol.10

私たちが釜石に行く理由

震災が起きてから今日までの動き



被災地の現実

岩手県釜石市栗林地区。この地区はジョイ（柏崎未来さん）が通っていた小学校や中学校、もちろん実家もあった場所。震災直後、見渡す限りがれきが広がっていたが、今ではだいぶ片付けられている状況だ。

釜石市に行って現場を見て、より早くの復興を願うようになりました。(けん・北海学園大2年)

すごく釜石はいいところですよ！なにかしたいと思うなら行動することが大事です！（りょーた・教育大4年）



一生忘れません（みどり・北大4年）

今まで周りのことに無関心だった自分に気付かされました。自分の住んでいる町も、釜石も、日本も、地球のことも、誰かに任せないでみんなて考えたら良いですね。（よっしー・教育大3年）

教師になり、ボランティアを通して感じたことを生徒たちへと繋げていきたいです！！（ディー・教育大4年）



ジョイさんの「家族・友達を大切にしていってほしい」ということは、心に響いたし、すごく大切なメッセージだと思った。(杉野真介・北翔大3年)



釜石、東北はとても自然に溢れていて温かく迎えてくれる優しい町でした。まだまだ手付かずのところが多く誰が行っても力になれると思います！（こちゃん・北翔大3年）

一番強く感じたのは災害の悲惨さではなく、現地の人の暖かさでした。ポラセン（活動拠点）に来てくれたお母さんの唐揚げがまた食べたい!!!（マサ・北星学園大4年）

被災地をただメディアを通して見るのと、五感を通して見るのでは全く違う!!『他人事』ではなく、『一人一人の意識』が大切!!（おばら・教育大4年）

震災がおきても人との繋がりはちぎれない。ボランティアに行き、より一層強固な繋がりに！（黒澤・北大院）

行ってよかったと心から思います。釜石の美しい自然と、釜石のために全国から集まったボランティアの方々のあたたかさになれることができたから。(いわむ・北大4年)



復旧作業はまだこれから時間がかかることを痛感しました。だからこそ、Remember 3.11!!!（まなぶ・北大4年）

一生、釜石ファンです!!（まー坊・北大院1年）

to ジョイ

by ezorock釜石ボランティアスタッフ

震災前よりもっと元気な釜石にしよう！（せーの・北大3年）

実際に行ってみて、パンクしそうになるほど、思うこと沢山でした。テレビの光景の向こうでは人が暮らしているということを実感しました。(をすぎ・教育大4年)

釜石は人と人との距離が近く、本当に良いところでした。一刻も早く地震前みたたく復興することを願っています。(あいし・北大2年)

釜石の方々は、とても心の温かい人だなと感じました。そんな方々にみなさんの力を貸していただきたく思います。(らいぶ・教育大4年)

ジョイさんやもんじいは毎日あそこで暮らしているのにポッと来た私達にもとても明るく接してくれました！次は長期で必ず行かせていただきます！（とも・苫小牧駒澤大学）

釜石の昔ながらの温かさが、もっともつと蘇るようこれからも応援していきます！（カナコ・教育大）

人と人とのつながりを学べた素晴らしいところでした♪JOYへ／二の腕の柔らかさ最高です！（とっくん・北海学園大1年）



釜石の人の温かさ、自然の豊かさがすごく好きです。そんな釜石の復興にまた何らかの形で関わっていききたい。一緒にがんばっていきましょう。(かい・教育大4年)

ジョイからみんなへ



NPO法人ねおす
柏崎 未来さん
(愛称:ジョイ)

いつも釜石の支援に多大なご協力をいただきまして、ありがとうございます。東日本大震災から半年が過ぎました。あっという間にも感じますが、とても長く濃い半年でした。たくさんの悲しい別れを経験し、辛い想いをしてきました。失ったものは大きく、その傷は消えることはありませんが、得たものもたくさんあります。それは釜石に来てくださるボランティアの方々との出会いです。特にezorockを経由してくる方々は私と年が近いので話しやすいし、元気をいつももらっています。ありがとうございます！私は大好きな故郷、釜石で自分にできることをがんばっていききたいと思いますので、これからもサポートよろしくおねがいいたします！

環境NGO ezorock 情報誌

釜石支援プロジェクト特別号 vol.10 2011.10

Rock The Life! ezorock

〒064-0809 札幌市中央区南9条西3丁目1-7

TEL/FAX 011-562-0081 E-mail info@ezorock.org

WEB http://www.ezorock.org/



環境NGO
ezorock
www.ezorock.org

私たちが釜石に行く理由

東日本大震災発生から約半年。
わたしたちはあるひとりの仲間のために
被災地へ行きました。また次の世代へ
今起こっていることを伝えていく
必要があると考えています。

文／高橋苗七子

2011年3月11日14時46分18秒

この日起こったことは、一生忘れられません。

わたしは、他のNPOの事務所にいて、ただのいつもの地震かと思いましたが、駅が崩れているというツイートや、USTREAMで見た濁流に飲み込まれる街の映像で、ただごとでないことを知りました。

みなさんは、どこで何をしていましたか。

東北地方太平洋沖地震。

日本において観測史上最大の、マグニチュード9.0を記録。東北の沿岸に大津波を引き起こし、1万5788名の死者、4057名の行方不明者を生み出した（2011年9月15日時点）。

傷付けたり、信頼を失うかもしれない。行きたい最初の理由はなんでもいい。現場の負担にならないように、北海道で募集や説明会を開催し、現地のことを知り、皆とジョイをうまくつなげることが大事だと思いました。

活動のひとつ、4月〜6月頃にやらせてもらっていた「青空喫茶」は、避難所の人だけでなくその周辺に住む人が物資を受け取ることのできる貴重な場所でした。避難所の人たちにとっては、ひきこもりがちな生活から外に出たり、自分の気持ちを人に話せる場所。また、それぞれのニーズに合わせて物資を選べる場所でした。そこで聞いた話は想像しがたい辛い話ばかりでしたが、皆いつも明るく振舞っていました。そういつた中で若者だからできることがありました。

子供の遊び相手です。年輩の方は若い人と話すのは久しぶりだと喜んでくれ、抱えていることを話してくれました。ほかに暑さの中、上下長袖にマスクをしてのがれき撤去作業や、不足していた若者向けの夏服を集めてのバザー開催など。帰ってきてからも大学や周囲の友達に声をかけ、人がどんどんつながっていきました。

しかし忘れてはいけないのが、わたしたちの活動にかかるコストをさまざまな支援者の

被害にあった東北の沿岸部にある岩手県釜石市は、わたしたちが「ジョイ」と呼んでいる、釜石出身の女性・柏崎未来さん（26才）の故郷。山と、溪流と、三陸の海のある町です。

ジョイは震災の翌々日、職場である、北海道で自然体験事業などを行う「NPO法人ねおす」の2名と一緒に、なんとか釜石に入り、それからずっと現地で活動をしています。元々、来年になったら釜石に戻って、大好きなおばあちゃんを持つ知恵や生活技術を学びながら、それを伝える仕事をしたいと考えていました。わたしたちが一番やりたいことは、同じ北海道の若者であるジョイの夢を応援することです。それは、釜石の復旧復興につながる

方々が提供してくださっていること。交通費、食費、調整費、交通費の一部…釜石でもお風呂、食事の差し入れなど…さまざまな方の思いを背負って活動しています。

釜石から内陸へ車で1時間の「岩手県遠野市」。震災直後、ガソリンも、食料も不足する中、今まで培ってきた民間のネットワークで、いち早く物資、ボランティアが集まり、周辺地域への支援拠点となりました。お金や物資の準備より、人と人のネットワークがまず活用されたのです。



自分たちです
食事をしています



ジョイがいつも言うのが、「釜石のファンになってほしい」。実際に行くと、被災地としてでなく、いち地域として見る事ができます。蛸のいる溪流、笑顔で快く受け入れてもてなしてくださる地域の方、おいしい東北料理、ふとしたところに感じる歴史や文

はずです。

釜石では、3月後半からの、のべ74名の若者がezorock経由で活動しました。ボランティアには受け入れ側にも、送り出す側にもコーディネートが必要です。現地ではジョイの所属するねおすが、地域に入り、今必要とされていることはなにかを知り、仕事をつくりだし、宿泊・食事の拠点を確保してくれていた。わたしたちにそれは出来ないけど、その仕事の実働部隊として動くことはできます。

ただ、現地での実際の活動は、刻一刻と変わるニーズに答えることの連続で、誰も先が見えていません。よってボランティアに任せられることも多く、また、地域の方からは黄色のジャンパーを来ている人は全員「ねおすさん」と見られます。一つの発言や行動で人を



時は撤去が
ベストに
なっています

これを着ると、
北海道のスタッフ
だとすぐわかる！

化、地域を好きになることで、また行きたくなるような継続的な関係になり、それがネットワークになり、助け合える関係になるのだと思います。

こうしてつながった北海道の若者が、ezorockロゴカラーのグレーのよう（黒でもなく白でもなく、何気なく社会の色々なところに溶け込んで、これからの社会のあり方を決めるプロセスの中に入っていくことに、意味があると思っています。

阪神大震災がボランティア元年となり、NPO法施行のきっかけとなったように、今回のことも、社会で大きな変化を生んでいます。それはなにかまだわからないですし、これからの自分達次第ですが、今回のことを知らない次の世代の子どもや孫たちに、空気を感じ、人と話し、汗を流して得た実感を持った言葉で、伝えることができるようになりたいと思っています。

ただ、できることは直接行くことだけではありません。ジョイが定期便の皆に別際言った言葉を最後に紹介します。

「私の地元はこんな風になってしまったが、皆の故郷に残っているから、家族や、地元を大事にしてほしい。」

定期便

この状況を伝えていかなければならないという気持ちになりました。そこにいた人達のたくましさや強さそして優しさはボランティアに行った僕達だからこそ知り得たこと事かもしれません。これからそのことをどのように伝えていくか考えていきたいです。（7月8日〜11日／りょうた・教育大4年）

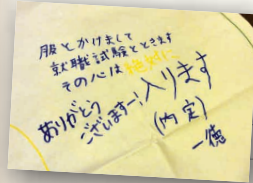


ティーンズプロジェクト

私は高校生なので、支援に行くことも、募金もほとんどできないと思い、直接被災者の人たちの力になれないと思いこんでいました。しかし、「高校生の物資が少ない」という話を聞いて、「私にもで



きることがあるんだ！」と思い参加しました。同じ高校生が対象であれば、支援という関係よりも、もっと現地の高校生と繋がって、できることを行なっていきたいです。（もえ・平岸高3年）



3.11

岩手県釜石市

ezorock

東日本大震災 大津波発生

ジョイ釜石へ
物資提供スタート
子供遊びスタート



青空喫茶スタート



がれき撤去作業スタート



長期ボランティアスタート
ティーンズプロジェクト

6月



ねおすボランティア隊
に同行し、定期便（緊急便）を実施。
短期8名

7月



青空ひろはスタート

8月



ezorock主催の
定期便をスタート
数名が長期ボラン
ティアとして、次週
の便まで残る仕組
み。
長期8名、短期26
名
主にながれき撤去
作業、
川の清掃活動、ヘ
ドロ
出し



定期便一時停止。
ジョイとRSR11で
再会



9月

漁業支援スタート



ねおす主催で定期便を
再開。
募集、説明会の協力。

ボランティアスタッフの感想

長期ボランティア

釜石で見てきたこと、感じたこと、何よりも現地の人たちの思い。その全てが僕に衝撃を与えました。そして、その時間は人生においてかけがえの無い自分の一部ともなりました。どんな思いでもいい。ぜひ、皆さんも東北の力になってください。（5月27日〜6月14日／のっていー・北海学園大学3年）

